

## ブルキナファソ観光

平成21年5月  
在ブルキナファソ日本国大使館

ブルキナファソは、西アフリカに中心に位置する内陸国で、交通の要所にあたるため、マリからニジェール、ガーナ、トーゴ等と共に訪ねる旅行者が多いようです。「ブルキナファソ」とは、現地語で「高潔な人々の国」という意味で、この「高潔な人々」は勤勉で優しい人柄の持主です。旅行者の中には、ブルキナベ（ブルキナファソの人）のホスピタリティーにほっと息をつき、「アフリカで一番の思い出」と語る人も少なくないようです。

この国は、人口1400万人に60以上の部族がいて、イスラム教徒とキリスト教徒が仲良く暮らしています。各部族の伝統工芸品の中でも、木の彫刻、ブロンズの置物、バティック（ろうけつ染め）、銀細工は、有名です。アフリカ最大級の「国際工芸見本市（SIAO）」が2年に1度、首都のワガドゥグで開かれていますので、偶数年の10月下旬に来る機会があれば、ぜひ訪れてみてください。

また、「国際工芸見本市」と並んで世界中から人が集まるのが、アフリカ最大の映画祭である「パン・アフリカ国際映画祭（FESPACO）」です。40年以上の歴史を誇り、数々のアフリカ出身の映画監督がこの映画祭でまず注目をされ、その後世界で活躍しています。2年に1度、奇数年の2月頃にワガドゥグで開催されています。

首都以外では、西部ボボ・デュラツソの旧市街やモスク、南西部ガウアの口ロペニ遺跡（2009年ユネスコ世界遺産登録申請中）、北部ゴロン・ゴロンの木曜マーケットやラクダツアー、南東部アルリ国立公園等を訪ねることができます。

ブルキナファソの魅力は何よりも手つかずの自然と笑顔あふれるブルキナベ達です。いつどこを訪れても、きっとあなたを温かく迎えてくれるはずです。

市場（マルシェ）の様子



ロロペニ遺跡



[渡航情報](#)